

実践記録

102

シリーズ

第57回新潟県公民館大会
事例報告1から



地域づくりに対する公民館のかかわり方

糸魚川市上早川地区公民館 主事 平内 芳美

1. はじめに ～糸魚川市、上早川地区の概要～ (省略)

2. コミュニティ活動をはじめとする様々な地域づくり

自然豊かな地域ですが、65歳以上の人口が占める割合は40%となっており、少子高齢化、過疎化の事態は近年ますます深刻になっています。

しかし、この地域ならではの特色ある地域づくり活動が様々な展開されており、今回の大会テーマ「地域づくりに対する公民館のかかわり方」に沿って当地区の実態を紹介します。

(1) 上早川コミュニティ推進協議会と公民館

昭和60年4月、上早川コミュニティ推進協議会が設立されましたが、それよりも早く一集落、一地区がすでに活動を始めており、いわゆる地域おこし、地域づくりの動きは他に先駆けたものがありました。

時ほぼ同じく昭和61年4月、旧糸魚川市内の10地区公民館が住民主導型公民館として生まれ変わり、「集まる場」「学ぶ場」として、地域の特色を生かした公民館運営がそれぞれの地域に任せられました。住民主導型公民館とは、地区公民館の管理や事業運営等を、当該地域が行うというもので、公民館長をはじめとする職員を地区公民館管理運営委員会が推薦し、推薦された人は市の非常勤特別職などとして委嘱を受け、その職員が中心となって地域の实情に合った公民館運営を行うというシステムです。職員は非常勤の館長他、臨時職員として主事、副主事が各1名ずつ配置されており、原則として当該地域に住んでいる人の中から推薦され、委嘱されます。

さて、その当時の公民館3大事業といえば運動会、敬老会、文化祭で、運動会では青年サークルが企画運営を一手に引き受け、汗まみれになってグラウンドを走って回っていた姿を今でも鮮明に覚えています。また、敬老会では、皆さんから楽しんでいただけるよう支館ごとに手作りのステージを。文化祭ではその年のテーマを決め、地域・学校・公民館が一体となって開催し、回を重ねるとこの50回となりました。そこには地域を支えてくれる人がいるからだと思えます。

[上早川コミュニティ推進協議会のあゆみ] (省略)

コミュニティ活動といっても設立当時はなかなか理解を得られない状況であり、まずは自分たちができることを、と「花いっぱい運動」に取り組むことから活動が始まりました。行政と連携をしながら、プランター、花の苗を提供してもらい、小学生、中学生と一緒に花植えをし、地域の一歩目に止まる場所に並べられました。地域の人のもとより、温泉へ来てくださる人の目を引き、そのうちに通りがかりの人が草をとってくれたり、咲き終えた花を摘んでくれたりして、みんなに管理され、季節ごとに次々と花が咲いていました。

今でも県道沿いや、焼山の里ふれあいセンターでの美化活動は続いています。

(2) 上早川文化事業と公民館

今から十数年前、総代会、コミュニティ協議会、地区青少年健全育成協議会、地区社会福祉協議会、そして公民館の5団体が共催して、地域の活性化をテーマにした文化講演会を開催していました。ある年の講師としてお迎えた先生が、外から見た上早川の自然のすばらしさをお話され、自分もこの先このように所で住んでみたい、と話を結ばれました。地元の参加者全員が、改めて上早川の自然のすばらしさを再認識した内容でした。

数年後、その話が現実のものとなり、その先生が当地へ転居してきました。そして、地域に文化を芽生えさせ、地域外の人ととの交流を目的とする文化事業を行いたいと、公民館へも相談があり、上早川文化事業実行委員会が立ち上がりました。今から10年前のことです。実行委員会は、これまで「切り絵・影絵展」「良寛を描いた絵画展」「コンサートやシンポジウム」など多彩な内容で事業を展開し、地域内外の多くの方に足を運んでいただいています。

会場となっているホコ自習館へ何回も訪れた方がおっしゃるには、ここは雨が降っていてもよし、曇っていても、雲が上がるとうすばらしい景色が見えそうでまた来たくなり、また真っ青な空を見ると別世界にいるようだと感じていました。

また、親子で会場へ来られた方が、この時期になるのがすごく楽しみだ、と春の開催をいつも待っていてくださいます。実行委員の人たちも一緒になって感動できた場面でもあったようです。

ただ、地域の方の関心がいまひとつなのが残念ですが、10年目を迎えた今年は、この春から「いなか弁当」の試作や試食会、山菜の調理方法や保存方法など、独自の研究を進めている取り組みの紹介など、足元に目を向けた事業が計画されています。つい先日の替女公演が行われた際にも、山菜の佃煮の試食会をして意見交換をしました。この秋の事業実

施に向けて、作付け計画なども着々と進められており、今後、みんなに親しまれる上早川の特産が生まれることを願っています。

(3) 湯川内の地域づくり

また少し角度を変え、湯川内という地区の活動を紹介します。

この地区は、現在世帯数55戸で、上早川地区の南端に位置しています。

・発 足…昭和54年5月

糸魚川市社会福祉協議会より「地域づくり社会づくりから子どもたちの健全育成」の指定事業を受け、人と人との心のふれあいを推進し、明るい住みよい地域づくりを目的に活動展開をする。

(湯川内へき地保育所、上早川小学校 湯川内分校を中心に)

・事業内容…集落内の花植え

アジサイロードの草刈り

キャンプ場の管理

夏祭り(お神輿、魚のつかみ取り大会、仮装盆踊り大会)

子ども会(書初め大会)

賽(サイ)の神

中でもお盆の15日に行われる子ども神輿は人気で、神輿が集落を回ってくるのと地区内の人がこぞって道路沿いへ出て、みんなで楽しんでいきます。また、川原での魚のつかみ取り大会は長い歴史の中で、常に根強い人気を集めており、お盆に故郷へ帰省した人も、大いに楽しみにしていると感じています。

ちなみに推進委員会は、昭和57年には「花いっぱい部門」、昭和58年には「地域づくり部門」で、あしたの新潟県を創る運動協会などが主催する新潟県自治活動賞を受賞し、さらに平成4年には会の代表が、(財)あしたの日本を創る協会などが主催するふるさとづくり賞の内閣総理大臣賞(個人賞)を受賞するなど、活動が高く評価されています。

(4) 西山の地域づくり

さらにもう一つの地域づくりをご紹介します。

世帯数60戸の西山という地区では、平成3年3月に廃校となった西山小学校を寝泊まりできる施設として改修し、その利活用を中心とした独自のコミュニティ活動を展開しています。

メインイベントである『烏帽子の里 山菜祭り』は、今年13回目を数え、110名ものお客さんを迎える大イベントに成長しました。県内はもとより、関東方面など遠方からもお出でいただき、この地区のみならず上早川全体の活性化につながっています。

公民館も参加申し込み先として一端を担っており、電話で申し込みされるお客様、ぜひ行きたいという気持ちが自然と伝わって来るのが何とも言えません。リピーターも多くうれしい限りですが、定員に達してしまつて断らざるを得ないこともあり、心苦しい思いをするほどです。

『六左衛門湯の道』をたどり (省略)

(5) スポーツや音楽を通じた地域づくり

スポーツを通じた地域づくりという面でも、上早川には2つの大きな事業が生まれ育っています。一つは、「早川縦断駅伝大会」です。これは、早川沿いを若いも若きもタスキをつないで走ってみよう!と昭和53年の第1回大会以来28年間続いており、役員よりも走ったほうが多いという人も多く、今では役員の選出に苦慮しながらも熱く続いています。

もう一つは早川スキークラブが主催するスキー大会で、その歴史は遠く大正時代にまでさかのぼり、70回を超える長い歴史を誇っています。近年は糸魚川市の市民スキー大会のクロスカントリー部門としても開催されており、どんな豪雪でも大会運営を続けています。

この二つの事業については上早川、下早川との合同運営をしていますので、早川谷の歴史のある事業となっています。

また、つい最近、今までになかった音楽というジャンルの活動として、昨年から新しいサークル、『器楽アンサンブル』が、上早川コミュニティ推進協議会を中心に誕生いたしました。時代の流れの中で薄らいでいくもの、消えつつあるものが多い中で芽生えたサークルにほのぼのとした心持になります。ステキなメロディをいつまでも奏でてくれることを願ってやみません。

3. おわりに (省略)

